



とやま はちろう
外山 八郎 氏

生年月日 大正 2 年 5 月 22 日生

住 所 田辺市元町

大正 2 年 (1913 年) 5 月 22 日、日高郡南部町 (現みなべ町) において、外山秋作、サク夫妻の八男として生まれる。

昭和 12 年 (1937 年) 3 月、東京帝国大学 (現東京大学) 法学部を卒業後、民間企業に就職されたが、健康を損ねたため、自然環境に恵まれた田辺市の天神崎の近くに移り住み、田辺高等学校の教諭となる。

高等学校在職中は、難しい商業法規の教科を分り易く講義され、そのもの静かで温厚な性格と相まって生徒に敬愛される一方、敬けんなクリスチャンとして田辺教会を中心に活動され市民からも尊敬されている。

健康のため食生活には気を使っておられ、徹底した健康食で通しておられるが、また、養生のため田辺に住まわれるようになって以来、自宅の裏から森の中を歩いて日和山山頂に登り、そこから天神崎の海岸へ向けた素晴らしい景観を満喫される中で、環境保護にも強い関心を持っておられた。

昭和 49 年 (1974 年) 初頭、天神崎の海岸沿いの見晴らしの良い斜面に高級別荘地を造成する計画があることを知り、開発を未然に防ぎ大自然との触れ合いの場を守るためには時期を失することなく運動を起こさなければならないとの考えから、外山氏の呼びかけにより「天神崎の自然を大切にす会」(会長 小山周次郎 [第 8 回(昭和 52 年)田辺市文化賞受賞]) が組織された。

その後、署名集めに始まり、市・県への陳情、熱意表明募金と活動を展開し、最終的に市民運動により土地を買い取る方向で運動が進められることとなる。

しかし、募金活動は思うように進まず、役員や高等学校の先生などの協力を得て進めていたが、最後には氏の個人財産や退職金だけでなく、氏の土地建物を抵当に銀行から借入れを行うなど、筆舌に尽くしがたい苦労をされた。その後、全国的な募金活動や、市・県の補助金などを得る中で買い取り運動が進み、昭和 61 年 (1986 年) には「財団法人 天神崎の自然を大切にす会」を設立、ナショナル・トラスト法人第 1 号に認定されるが、氏はその専務理事として、買い取り地の管理や新たな募金による買い取りの継続を行い、平成 5 年 (1993

第 26 回 (平成 7 年)

年) に名誉会長となる。

これまで進められてきた天神崎の買い取り保全運動は、日本中の注目を集め、平成 7 年 (1995 年) 現在までに 6.2 ha が買い取られたが、この運動がここまで進むことができたのも、氏の献身的な努力と自然保護にかけける情熱があればこそであり、氏の功績の大きさには計り知れないものがある。

(略 歴)

昭和 12 年 (1937 年) 3 月	東京帝国大学法学部法律学科卒業
昭和 12 年 (1937 年) 4 月	三菱海上火災保険株式会社に入社
昭和 15 年 (1940 年) 4 月	財団法人 東亜研究所に入所
昭和 23 年 (1948 年) 4 月	和歌山県立田辺高等学校常勤講師
昭和 24 年 (1949 年) 4 月	和歌山県立田辺高等学校教諭 日本基督教団田辺教会長老
昭和 25 年 (1950 年) 4 月	日本基督教団田辺教会責任役員
昭和 33 年 (1958 年) 4 月	和歌山県立田辺商業高等学校へ異動
昭和 51 年 (1976 年) 3 月	和歌山県立田辺商業高等学校非常勤講師
昭和 54 年 (1979 年) 3 月	和歌山県立田辺商業高等学校退職
昭和 49 年 (1974 年) 2 月	天神崎の自然を大切にする会事務局長
昭和 52 年 (1977 年) 7 月	天神崎保全協会準備会発起人代表
昭和 53 年 (1978 年) 11 月	天神崎保全市民協議会事務局長
昭和 58 年 (1983 年) 2 月	ナショナル・トラストを進める全国の会顧問
昭和 61 年 (1986 年) 7 月	財団法人 天神崎の自然を大切にする会専務理事
平成 5 年 (1993 年) 6 月	財団法人 天神崎の自然を大切にする会名誉会長
平成 5 年 (1993 年) 9 月	社団法人 日本ナショナル・トラスト協会理事
平成 7 年 (1995 年) 4 月	社団法人 日本ナショナル・トラスト協会顧問